

平成29年2月1日発行

# 熊川宿

鯖街道

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



Photo: 若狭熊川宿重伝建選定20周年記念事業 現地案内(平成28年11月27日・河内川ダム見学者広場にて)

## 若狭熊川宿重伝建選定20周年記念事業

第4回 北信越町並みゼミ 熊川宿大会の部

若狭熊川宿重伝建選定20周年記念フォーラムの部

日時：平成28年11月26日(土)・27日(日)

会場：福井県若狭町熊川宿

主催：若狭熊川宿重伝建選定20周年記念事業実行委員会

協賛：若狭熊川宿まちづくり特別委員会・若狭町・熊川区・

全国町並み保存連盟北陸甲信越ブロック

特別協賛：一般財団法人地域活性化センター

※この事業は、公益財団法人地域社会振興財団の交付を受けて

「平成28年度長寿社会づくりソフト事業」として実施しました。

熊川宿が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから20周年を迎えたことを記念して行われました。北陸甲信越を中心とした町並み保存団体、近隣の伝建地区の関係者や地元住民など、2日間で延べ約350人が参加しました。

11月26日(土)午後から翌27日(日)午前中にかけて行われた「第4回 北信越町並みゼミ 熊川宿大会の部」は、20年かけて整備された「熊川宿」と周辺の「自然」、そして、まちづくりを継続する「人」をテーマに、先生方の講演や各地の参加者からご意見をお聴きしました。

また、11月27日(日)午後から行われた「若狭熊川宿重伝建選定20周年記念フォーラムの部」は、今までの多くの方のご尽力を振り返りながら、未来をみんなで作るよい機会になりました。

最後に、熊川宿のまちづくりにご尽力いただいた先生方と実行委員や区民との意見交換会で閉幕しました。  
(2・3ページに関連記事)

### 目次

重伝建選定20周年記念事業	1・3
熊川いっぶく時代村	4
研修報告・活動報告	5
活動報告・お知らせ	6

## 20周年記念事業 有意義に開催

第4回 北信越町並みゼミ 熊川宿大会の部  
若狭熊川宿重伝建選定20周年記念フォーラムの部

11月26日(土)

◇現地案内

旧浅見勘兵衛家・宿場館・熊川葛加工場

◆第4回 北信越町並みゼミ 熊川宿大会の部(熊川児童館)

◇開会セレモニー

◇各地からの報告

熊川小学校児童の子ども語り部、遠敷丹後街道まちなみ保存推進会、小浜西組町並み協議会・今庄旅館塾・山中温泉ひがしたに地区保存会・熊川地区地域づくり協議会

◇基調講演

テーマ・「まちづくりは人との出会いから」



講師 峯村昌子氏(サンケイスポーツ編集局長文化報道部次長)

各地の成功事例をお聞きしながら、人と人とのコミュニケーションや世間遺産からまちづくりや観光を考える機会となりました。

◇パネルディスカッション

パネラー・峯村昌子氏・金堂まちなみ保存会・歴町センター大聖寺・若狭熊川宿まちづくり特別委員会

◇伝統芸能鑑賞・意見交換会

了人若狭上中支店 てっせん踊り

りと祭囃子の鑑賞・意見交換

◇ご参会の皆様から各地での取組みやご意見をお聞きし、楽しく交流させていただきました。

11月27日(日)

◇現地視察 河内川ダム建設現場・熊川宿の町並み

◇第一分科会 於・得法寺本堂

「地域の資源を有効に活かしたまちづくり」

前川や城跡の活用など具体的な提案があり、「保存あ

つての観光である」と励ま

しの言葉をいただき

いただきました。



てっせん踊り披露



祭囃子披露

◇第二分科会 於・松木神社義民館  
「まちづくり活動への若年層の活躍」  
「地域の人々のサポートがあり子どもたちの笑顔がある。若者の定着のためにも経済の活性化が大切」と話し合われました。



第二分科会

◇分科会報告(熊川児童館)

◇若狭熊川宿重伝建選定20周年記念フォーラムの部若狭町歴史文化館

◇開会セレモニー

◇基調講演 「熊川宿のまちづくりと今後の展望について」

講師・陳内秀信氏(法政大学デザイン工学部建築学科教授)

熊川宿への提言と絡めてイタリ

アの地域再生事例を紹介いただきました。



講師・西村幸夫氏(東京大学大学院工学系研究科教授)

ブータン王国からのお祝いメッセージや熊川宿20年の歩みを鑑賞し、熊川宿の町並み調査などについて語っていただきました。

◇リレートーク 西村氏 陣内氏・黒坂貴裕氏・福井宇洋氏 高嶋篤氏 各地のまちづくり団体代表 立命館大学生



登壇の先生方

会場参加型の楽しいトークを進めていただき、先生方や各地の皆様から熊川宿との関わりや取組みについて語っていただきました。

◆熊川宿重伝建選定20周年記念意見交換会(熊川児童館)

◇俳句・川柳の優秀作品紹介と表彰(入賞作品は熊川宿HPを参照)

◇功労者感謝状贈呈

◇意見交換会

囃子の子どもたちや親御さんも一緒に参加して和気あいあいの中で、熊川宿のまちづくりに深く関わってこられた先生方の感想をお聞きしました。20周年を振り返るスライドショーは子どもたちにも好評で大いに盛り上がりました。

◆今年度の記念事業を通じて得られた多くの知見を活かしながら、皆で考え行動し、さらなるまちづくりにまい進することをお約束し閉会しました。

◆今年度の記念事業を通じて得られた多くの知見を活かしながら、皆で考え行動し、さらなるまちづくりにまい進することをお約束し閉会しました。

## 「若狭熊川宿重伝建選定20周年記念事業」を振り返って

若狭熊川宿重伝建選定20周年記念事業実行委員長  
若狭熊川宿まちづくり特別委員会会長

宮本 哲男

この度、重伝建選定20周年を迎え記念事業を開催しましたところ、多くの皆様にご出席を賜り、成功裡に終了させていただいた事に対し、深く御礼申し上げます。

熊川宿は重伝建選定以降、景観整備や家屋の修理事業が進み、充実したまちづくり活動を展開する一方で、産業構造の変化や少子高齢化の影響に加え、伝統的な建造物群を維持する必要性から、二世帯・三世帯が居住しにくい特性もあり、若い世代が熊川を離れ空き家や留守宅が増加してきました。

これからも熊川宿を価値ある財産として維持していくためには、熊川宿や周辺の自然環境も活かす、「熊川宿で生活できるまちづくり」を目指す必要があります。そのためには、地域全体のコミュニティのあり方、後継者や人材



現在の熊川宿



昭和50年代の熊川宿

の育成、来訪者に喜んで頂ける観光のあり方などについて改めて勉強すると共に、重伝建選定20周年をお祝いする機会としたいと考え、「第4回北信越町並みゼミ、熊川宿大会の部」(二世帯と地域を超えたまちづくり)と「熊川宿重伝建選定20周年記念フォーラムの部」(熊川宿20年の歩みと未来に向けてのメッセージ)の二部構成の事業として実施することとしました。

具体的な企画は、実行委員会を設置すると共に、全国町並み保存連盟、妻籠を愛する会、歴町センター(大聖寺、金堂まちなみ保存会)などのまちづくり活動団体様ともご相談させていただきました。重伝建選定20周年にふさわしい内容も加味しながら計画を致しました。



事前打合せ(金堂にて)

予算面では、一般財団法人地域活性化センターを通じ、公益財団法人地域社会振興財団の交付を受け「平成28年度長寿社会づくりソフト事業」として認められ特別協賛をいただく事ができました。

また、周辺の美しい自然環境を活かしたまちづくりについて助言を頂くべく、河内集落と河内川ダム建設工事現場も視察頂きました。これら企画には河内川ダム建設工事事務所にご協力いただきました。



建設中の河内川ダム

今回の記念事業は町並みゼミやリレートークをメインとした研修目的での事業でしたが、延べ350名を超える皆様にご参加いただくと共に、重伝建選定20周年記念の俳句や川柳の募集についても全国各地から多くの応募をいただく事ができました。

現代は、物資は溢れ、行こうと思えばどこへでも出かける時代です。そんな環境の中で、お客様は熊川宿に何を求めて出向くのかをしっかりと考え、そのニーズに応えられるよう対応力を強化する必要があります。



閉会セレモニー



集まる皆様

熊川宿のまちづくり活動については、平成18年に策定した第二次熊川まちづくりマスタープランに基づき進めてまいりましたが、策定から10年を経過しております。今回の記念事業で多くの皆様から頂いた貴重なご意見やご助言を踏まえ、このマスタープランを見直し、将来に向かって新たな目標を策定したいと考えております。最後になりましたが、遠方からお越しいただいた皆様へ深く感謝致しますと共に、運営全般にご協力いただいた学識経験者の先生方、地区民の皆様、事務手続き全般を担っていただいた若狭町歴史文化課を始め関係行政の皆様重ねて御礼を申し上げます。

# 熊川いっぷく時代村

今年は  
**10月1日**開催予定

と き：平成28年

**10月2日**

と ころ：鯖街道 熊川宿

(福井県三方上中郡若狭町熊川)

主催：熊川区・熊川いっぷく時代村実行委員会

共催：若狭町

後援：福井新聞社・NHK福井放送局・

FBC・福井テレビ・FM FUKUI・

チャンネルD・MMネット

司会：興隆園家 福蔵



オープニング



人力車 & 駕籠屋

好天に恵まれ多くのお客様にご参加いただきました。石鼓ウインドアンサンブルのミニ演奏会で開幕。オープニングでは、熊川宣言と来賓の挨拶、出演団体の紹介と舞台披露が行われました。



高所作業車は今年も好評！上空から見る時代村の賑わいは壮観。



## ブリキの金魚レース

年前は「NHK大河ドラマ武蔵」、午後は「重伝説20周年」の記念レース。最新ニュースも発行し白熱したレース展開。



初登場 太神楽曲芸



初登場 心願絵 & 碁遊び



射的・緑日 昔遊び



三味線体験



子ども語り音



山車巡行



立命館大学サークル ちんどん屋



立命館大学サークル 和太鼓



町の町おもしろになった近藤町のゆるキャラたちが登場！ふれあったりや高を越えたり超人気。

## ゆるキャラと山車をしごう

子ども輪子を載せて、ゆるキャラと一緒にみんなで山車をひきました。競走するのは熊川小の子どもたち。「わっしょい」の掛け声とともに楽しく進行できました。



親子で熱中！暑かったので川に入って涼めたかな。定員オーバーで入れなかった子はごめんね。激魚販売も売切れ続出。

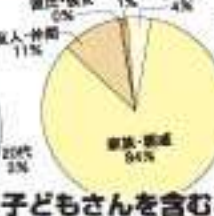
## ニジマスをつかみどり

## 来場者アンケートによる 人気イベントランキングトッス3

- 第1位：スタンプラリー
- 第2位：ブリキの金魚レース
- 第3位：自然や町並み

次いで、立命館大学サークル、朝りの部民隊、人力車、ニジマスつかみどりげ 上位の人気でした。

来客状況



子どもさんを含むご家族連れが、県内外の各方面から多数来られました。

【活動報告】平成28年7月～9月

**伝建地区保存審議会**

(7月25日・旧逸見勘兵衛家)

教育委員会の諮問に応じ、伝建保存地区の修理・修景等に関する重要事項について調査審議をする会議です。委員は、学識経験者、関係行政機関の職員、関係地域を代表する者で構成し、今回は現地を確認し、旧逸見勘兵衛家で審議会が行われました。

**陶の灯り展と納涼盆踊り**

(8月13～15日・期川区・自主学級ほか)

宿内全域に設置された陶の灯りが幻想的な夜を演出しました。15日夜には、多くの区民が盆踊りや夜店、抽選会を楽しみました。

**京都一乗寺 てっせん踊りに参加**

(8月31日・伝建芸能保存会)

京都一乗寺八大神社の八朔祭に参加させていただきました。さすが本家本元、鉄扇音頭は皆さんの息がよく合っていてテンポも音程も正確でたいへん勉強になりました。

**あす県 県民のつどい**

(9月3日・あすの福井県を創る協会)

県内各地で活動しているまちづくり・地域づくりの団体が参加し、実践発表やパネルディスカッションが開催されました。今回は、重伝建選定20周年記念事業のチラシの配付やご協力をいただきました。

**伝建協中部北陸ブロック研修会**

(9月24・25日・愛知県豊田市足助)

平成24年度より隔年でブロックごとの研修会が開催されており、高山市・郡上市、亀山市に次いで、今回の第3回が「防災」をテーマに豊田市足助で開催されました。



文化庁下関調査官の講演に続いて、岐阜県恵那市岩村、熊川宿、豊田市足助地区の事例発表や足助の町並み散策、情報交換会などが行われました。その内、下関調査官からは、文化財と防災についての基本的な捉え方についてお話がありました。我々、防災といえば主に人的災害を未然に防止することを考えますが、文化財に対する防災全般についての講演でした。

第2分科会は、白川郷の和田氏の進行で「人が住み続けられるまち」をテーマに議論されました。町並み保存のためには「地域経済を成り立たせていくことが不可欠であること」、「観光の本質は「人の生業がしっかりあること」、「衣食住の文化を磨くこと」が基本である」との思いを共有しました。それぞれの分科会交流会では多くの方々と懇話しました。

第1分科会では、西山先生の進行で「町並み保存と活用」をテーマに、現地を見聞きし、大内宿の魅力や課題を掘り起こすワークショップが行われました。大内宿と妻籠宿から話題提供もありました。最後に各グループでまとめたことが発表され、いろいろな意見は我がまちづくりでも参考になる部分がありました。

第2分科会では、白川郷の和田氏の進行で「人が住み続けられるまち」をテーマに、現地を見聞きし、大内宿の魅力や課題を掘り起こすワークショップが行われました。大内宿と妻籠宿から話題提供もありました。最後に各グループでまとめたことが発表され、いろいろな意見は我がまちづくりでも参考になる部分がありました。

**第39回全国町並みゼミ 大内・前沢大会**

と き…平成28年9月9日(金)～11日(日)

と ころ…福島県南会津郡下郷町大内宿・南会津町前沢集落

参加者…9名

大会に先立って、宮本会長は前日の理事会から出席しました。

佐藤実行委員長、町並み保存連盟の福川理事長、来賓の挨拶による全体会で開会しました。

続いて北海道大学西山教授の進行で「町並みを次の世代へ」をテーマに、地元大内宿の古村徳男氏と岐阜県白川村の和田正人氏の対談が行われ、地域の伝統行事や茅

葺きの伝統技術の継承、保存地区の交通対策など、両地区での取組みが報告され、地域コミュニティの持続の重要性を再認識しました。

続いて行われた全国各地17件の報告では、火災や震災からの復旧を始め、歴史的建造物保存の訴えなど多彩な活動報告がありました。



大内宿の町並みと現地視察



熊川からの参加者

北信越ブロックの会議では、東京大学西村幸夫先生、妻籠宿の藤原義則氏を始め、7団

体と1個人会員の皆さんが参加され、各地の状況や問題点などを共有することができました。

西村先生からは、町並みゼミでの情報発信やその活用について「高度化しており今後が楽しみ」とコ

メントいただきました。

歓迎交流会では、伝建協大会で顔なじみになった方や町並みゼミの個人会員など色々な方とお話をさせていただき、各地の情報をお聞きするなど楽しいひとときを過ごしました。

二日目は、5つの分科会に分かれて町並み見学会や分科会が行われ、熊川宿は第1、第2分科会に出席しました。



10/16

### 防災避難訓練(熊川宿自主防災会)

(熊川区自主防災会・熊川地区地域づくり協議会)

熊川区自主防災会の避難訓練が行われました。各組で被災状況を確認後、防災機器の点検を行いました。毎回のことながら多くの方が参加し、区民全員の安否確認ができました。終了後、熊川地区全体の避難訓練として熊川公民館へ二次避難をしました。



10/5

### 文化庁技官を囲む会

(若狭熊川宿まちづくり特別委員会)

熊川宿と小浜西組の交流を兼ねて毎年交互に開催しており、小浜市の旭座で行われました。旭座は昨年の春に復元完成された明治期建築の芝居小屋です。文化庁の稲垣文部科学技官をお招きして講演をお聴きし、夕食を交えて有意義な集いとなりました。



9/17

### 若狭熊川まちなみ芸術祭2016

(若狭熊川まちなみ芸術祭実行委員会)

台湾からお越しの余連春氏は彫刻作品を体験交流施設と七に、菅原瑞希さんは現代美術作品を道の駅の鯖街道ミュージアムに、萬未来子さんは絵画作品を旧逸見勤兵衛家蔵ギャラリーにそれぞれ展示されました。17日には作者によるアーティストトークが開かれ、制作工程などをお聞きしました。



12/28

### 年末夜回り警戒

(熊川区・上中消防団ほか)

底冷えの中、年末恒例の夜回り警戒が行われ、子どもたちを含む区民らが上ノ町と下ノ町の端から「火の用心」を呼びかけ行進、熊川児童館へ集結しました。区民らは、上中消防団の年末特別警戒出発式に参列し、森下若狭町長の挨拶や消防団長の訓示をお聞きしました。



11/20

### ツアー客をおもてなし

(熊川区・伝統芸能保存会・熊川女性の会)

昨年に続いて、クラブツーリズムのツアー客約350人が若狭瓜割名水公園から歩いてお見えになり熊川宿を観光されました。一行は、熊川女性の会による長操鎮のおもてなしを受け、子どもたちの祭囃子や伝統芸能保存会メンバーの熊川音頭を鑑賞されました。



11/19

### 河内川ダム見学

(熊川区ダム対策特別委員会)

初めに高台からダム本体の建設現場を見学しました。本体工事の進捗率は約60%で、共同企業体の奥田所長から本体設備や周辺環境についても説明を受け、湖周道路を巡って旧河内集落跡地も見学しました。次に、ダム本体の下流直下へ案内してもらい、壮大なダム本体を目の当たりにしました。



## 熊川宿 まちづくり 総集会

～開催のごあんない～

日時：平成29年2月26日(日)

13:30～

会場：熊川児童館(入場無料)

熊川宿の近況をお聞きし、まちづくりや未来を考える区民集会です。

今回は、功労者に感謝状贈呈、重伝建選定20周年を振り返ってのスライドやDVD鑑賞等を予定しています。

### あとがき

熊川宿が重伝建選定を受けて20年。その間に、町並み保存に対する住民の理解をもとに、景観整備や家屋の修理修繕をはじめ、関連団体の設立や活動、イベント対応、全国の間並み保存団体との交流など数多くの活動を行ってきました。なかでも平成26年5月に開催された伝建協議会全国大会は記憶に新しく、ご参加の皆様から好評を得られたことを誇りに思います。

そして昨秋、熊川いっぶく時代村は第17回を数え、11月には熊川宿重伝建選定20周年記念事業が行われました。お世話になった先生方や各地の諸先輩方にお越しいただき、環境資源の活用策や町並み保存と観光のあり方など貴重なアドバイスをたくさんいただきました。

これらを糧に、課題をみんなで考え一つ一つクリアして、熊川宿まちづくりのコンセプトである「みんながよくなるまちづくり」をさらに前に進めるため、協力していきたいと思えます。

(広報委員)